



暖かい心 広い視野 行動力 『県民ひろば号外』

もりちゃん通信

大分県議会議員 守永信幸活動報告

発行責任者
大分県議会・県民クラブ
守 永 信 幸
〒870-0022
大分市大手町 3-1-1
TEL 097-506-5088
FAX 097-538-0136

政治は暮らしをかたち創るもの



▲国会前で決意を新たにす吉川と吉田

第 27 回参議院議員選挙が終わり、衆議院に次ぎ参議院でも与党の過半数割れとなりました。野党の核となる政党が明確になっていない状況から、政権交代には至っていませんが、与党は野党との議論を丁寧なせざるを得ない状況になっています。

先の通常国会では、ガソリンの暫定税率の廃止

法案が衆議院で通過したものの、参議院では閉会日直前の土曜日に財政金融委員会での質疑を行ったものの、与党は審議不十分として採決を拒否。委員長は継続審議の手続きもしないまま委員会の散会を宣告。結果的に法案は廃案となってしまいました。

ガソリンの暫定税率の廃止は、次期臨時国会で議論し、前向きに取り組まれると思われます。消費税の削減については、店頭でのシステム改修の課題もあるため、今後十分な議論が必要と考えます。

ガソリンの暫定税率の問題に限らず、法整備の課題を始めとして私たちの暮らしに関わる課題の解決に向けて国会での真摯な議論が始められることに期待したいものです。私たちの暮らしをかたち創る国政議論にご注目下さい。

『戦後 80 年』の歩み

日本は 1945 年 8 月に終戦を迎え、アメリカを中心とした占領政策の下、日本国憲法を新たに定め、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の 3 本柱を堅持しながら戦後を歩んできました。

しかし、2014 年 7 月に第 2 次安倍内閣は、集団的自衛権を限定的に行使することができるとの憲法解釈変更の閣議決定をしてしまいました。その閣議決定を背景に、私たちが戦争法と呼んでいる集団的自衛権の行使に必要な法案「安保関連法」を 2015 年 9 月 19 日に強行採決し現在に至っています。

先日『終戦八十周年 大分県戦没者追悼式』が、別府市で開催されました。佐藤知事は、軍人・軍属だけでなく多くの方々が戦争で命を奪われたことに触れ、繰り返してはならないと式辞で述べました。遺族を代表して慰霊の言葉を述べた方は「いまだに戦争、紛争が絶えない。私たちの様な遺族を出してはならないと胸に刻み、戦争の悲惨さや平和の尊さを語り継いでいく」との決意を、若者



▲終戦八十周年大分県戦没者追悼式

の立場で参列した高校 3 年生は「私たちは、戦争を実際に経験した人の話を直接聴ける最後の世代かもしれない。記憶や教訓を受け継ぐ責任がある」との思いを語ってくれました。

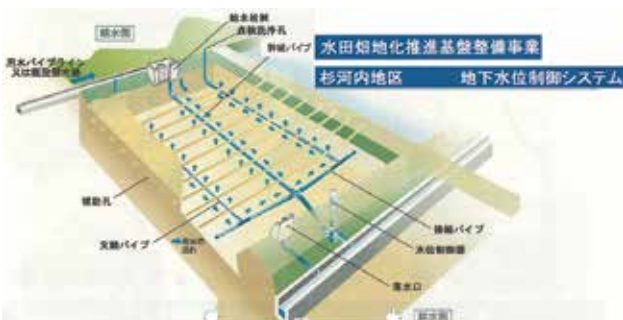
戦後 80 年という時間は、人生の記憶をいくつものバールで覆うことにもなりかねません。平和を築くためには、戦争がもたらすものが何であるのか、苦しい思いをした立場から語ってくれる人の思いを感じ取り、語り継ぐことが大切です。戦争の惨禍を直接体験した方々から直接話を伺い、平和を維持し将来にわたって享受できる社会とするために、より多くの方々と共有し、議論を深めていかなければなりません。

儲かる農林水産業に若者就業を

今年度は県議会での常任委員会は農林水産委員会に所属しています。5 月の県内所管事務調査も農林水産業関連の現場を調査しました。新たな農林水産振興計画『おおいた農林水産業元気づくりビジョン』では、土地利用型のコメから収益性の高い園芸品目等への転換が図れるよう水田の汎用化に取り組みながら、園芸品目で就農する若者の実習や経営農地として整備する事業が積極的に取り組まれています。

規模拡大を進める米作農家

コメ・麦・大豆といった作物は生活に欠かせない品目ではありますが、日常的に使うが故に安価での供給が求められます。コメ 5 kg が 4000 円台にまで高騰して大騒ぎになりましたが、5 kg 4200 円のお米をお茶碗 1 杯分（私の感覚になりますが）に置き換えると約 53 円ほどになります。従来の倍近い金額に跳ね上がったとしてもこのくらいの金額なのです。稲作農家から見ると小売で 2000 円台と言うことは、出荷額で見ると良くて 1500 円。生産コストと比較するとわずかな金額しか収入となりません。後継者が残る様な稲作農家は少なくとも一人あたり 10ha 以上の経営規模が必要です。



▲日田市入天瀬町杉河内地区で導入した地下水位制御システム
(資料提供 大分県西部振興局)

稲作農家の皆さんは、農家同士で農作業機械を共同購入したり、収穫時期の早い品種から遅い品種まで組み合わせて作業時期が集中しない様に工夫を凝らしながら経営をしています。しかし大分県には中山間地という山深い地域が多く、複雑な地形によって大規模な面積を効率的な営農体系で取り組めない地域も多数あります。そのような地域では、大きくない経営面積で収益性の高い品目として、ピーマンやトマト、白ネギ、小ネギ、梨や葡萄、桃、ハウスミカンなどの中から地域の栽培環境に適した品目を選定して取り組んでいます。

新規に農業を始める方々には、県の農業普及指導員や J A の営農指導員、市町村役場の職員などがアドバイスをしながら、地域の篤農家の皆さんとも協力をして指導に当たっています。

大分ブランドに磨きをかける

各産地で製品の品質を高めブランド力を磨き、市場で優位に販売する努力を続けています。これまで産地の品質に責任を持って取り組んで来た諸先輩方の努力に敬意を表しながら、これらを継承し続ける農林水産業者の皆さんの取り組みをしつかりと支えていかなければなりません。

今年の県内所管事務調査で伺ったケースをご紹介します。日田市では梨のリース団地の整備が行われていますが、2017 年 7 月に九州北部豪雨災害での被災を契機に始まった「日田梨創造的復興プロジェクト」によって整備された樹園地での出荷が 2023 年度から本格的となっており、入江地区においては水田転換樹園地に若手生産者の参入を促していました。



▲日田市入江地区の日田梨リース団地に育つ梨

中津市三光地域では 2024 年度の企業参入を切っ掛けにもも産地の再興について議論されるようになり、基盤整備事業を活用した園地の再整備を行い、新規就農者の確保へと意欲的な取り組みとなっています。

宇佐市の沿岸部に位置する和間地域では水田畑地化による白ネギ産地の拡大を実現し、既存農家の規模拡大に伴って後継者の就農につなげ、地域農業の発展に寄与した事例について説明を受けました。



▲中津市三光地区での桃産地の整備計画
(資料提供 大分県北部振興局)



▲宇佐市和間地域に広がる白ネギ産地

また、姫島での車エビの種苗生産センターの整備や、JF おおいたの蒲江加工センターの整備による海外マーケットを視野に入れたブリ用フィレ加工についても地域水産業の発展に寄与している状況を確認致しました。



▲JF おおいた蒲江加工センター

▶操業状況は会議室で映像による説明



▲榑日田中央木材市場の製材施設



▶榑日田中央木材市場のバーク処理施設

林業関係については、日田市の榑日田中央木材市場では、立木で購入し素材生産業者を手配する中で市場への原木供給の安定化を図る事例や、佐伯広域森林組合での伐って・使って・植えて育てる 50 年サイクル佐伯型循環林業などについて取り組みを伺いました。

コメの安定供給

昨年の夏頃からコメ不足やコメの価格高騰が騒がれ、今年度はこれまでに比べて、コメの価格が高い水準で取り引きされる見通しとなっています。これは諸物価が高騰する中で、コメの生産コストの上昇を反映しての対応でもあります。コメ作農家は経営規模の拡大を図り、農地の集積を進め作業体制の効率化を実現させながら営農コストの削減も進めていますが、肥料、農薬、燃料等の価格も高騰しており、コメの販売価格で一定の水準が確保されなければ経営できない状況となります。

中山間地域も含めて、コメ作りを後継者に繋げられる営農をめざさなければなりません。他の作物との複合経営で生産体制を維持するにしても、全くの不採算部門となってしまえば後継者に継がせることが出来なくなってしまいます。主食であるコメの安定供給体制を構築できるように、消費者の皆さんにも理解を求めていかなければなりません。

次の項目で紹介する『田んぼダム』は、私たちの暮らす地域の被災を免れるための取り組みですが、この取り組みも水田で稲作が安定的に行われることで機能するシステムです。地域でコメを作る農家がいなくなれば、深刻な自然災害の影響を受けることにもなってしまいます。

集落を守る『田んぼダム』の取り組み

「田んぼダム」という言葉を聞いたことがありますか。大雨の発生した時に、地域にある田んぼに水を貯めダムとして防災に役立てようとする考え方で、近年取り組み始めたものです。

温暖化の影響を受け、近年は線状降水帯などの豪雨により県内各地で浸水被害が発生していま



す。被害軽減のために、河川の流域で治水に取り組むことが必要とされています。

その様な中で、農家の皆さんにご理解頂いて水田に降った雨水を一時的に貯め、時間を掛けて排水していくことにより、地域の水路や河川の水位上昇を抑え、洪水被害を軽減する取り組みを行っています。

河川の氾濫を防ぐ上で、流域全体で河川への水の流れ込みを遅らせることが堤防の決壊等を防ぎ、流域に生活する方々の安全を守ることになるのです。田んぼダムで治水を図る上では、上流に近い水田から広く取り組まれることがより効果的なのですが、中山間地域に位置する集落では、山あいの狭隘な水田が放棄され原野となってしまうことがあります。そのような環境では水田の涵養機能は保たれません。流域治水をしっかりと機能させるには、その様な地域で水田を管理し、水稻や農作物を耕作し続けられることが大切です。

県下で田んぼダムに取り組んでいる地域は、11 地域、約 125ha (2025 年度現在) です。「おおいた農林水産業元気づくりビジョン」では、

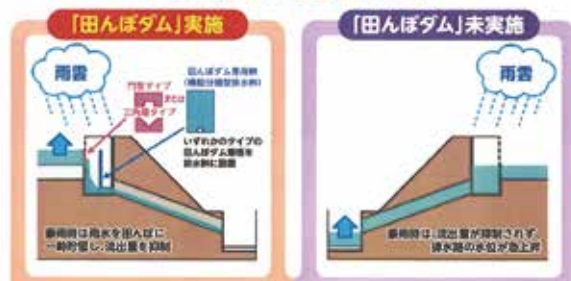
2024 から 2033 年度までの累計面積で 3000ha での実施を目標としています。ヨーロッパ諸国では中山間の条件不利地域で環境・土壌保全に取り組む農業者に対して所得保障制度が設けられたりしています。田んぼダムについて考えることを切っ掛けに、地域に人が暮らすことの大切さを理解頂き、元気な大分県づくりに皆さんが関わって頂くことを期待します。

田んぼダムの仕組み

水田の排水口に大きな水の出口がありますが、その出口を覆う堰を下図のように着けて、排水量が少なくなるようにするだけです。それによって水田の通常の管理水面の深さから更に 10cm ほど深く水を貯める迄の時間、排水量を減少させることが出来ます。圃場の環境や条件によって三角堰タイプや門型タイプ、田んぼダム専用柵などから選んで実施しています。(この頁の資料は大分県農林水産部から提供頂きました。)

詳しくは、大分県のホームページで「田んぼダム」を検索してみてください。

「田んぼダム」の仕組み



大分県の「田んぼダム」のタイプ



編集後記

参院選大分選挙区では、前回補欠選挙の雪辱を果たすことが出来ました。ご支援くださった皆様のお陰です。心から感謝申し上げます。▶結果として、衆参両院で与党の過半数割れが実現し、政府与党の説明が真摯になされる国会運営が期待されます。▶その上で、政治家のための政策から国民のための政策議論へと華麗に変身させることに期待したいものです。

お知らせ

- ◇常任委員会は「農林水産委員会」に所属。また、政策検討協議会委員を担っています。
- ◇行政や暮らしの相談をお受けしています。お気軽にご連絡下さい。
- ◇グループでの集まりなどに、お声がけ頂ければ、日程を調整の上、参加させて頂きます。
- ◇守永信幸後援会の会員を随時募集しています。年会費 3 千円です。

連絡先: 097-537-3044
FAX: 097-534-6598